

INDEX

株主の皆さまへ To Our Shareholders 1.2

売上高
経常利益
当期純利益

連結事業の概況 Business Results ... 3.4

楽器事業
AV・IT事業
リビング事業
電子機器・電子金属事業
レクリエーション事業
その他の事業

特集 Special Topic 5.6

成長する中国経済とヤマハの取り組み

トピックス Topics 7.8

新商品 New Products 9 ~ 12

エレクトーン「STAGEA」
サイレントピアノ「YS10・YS30」
グランドピアノ「Z1」
サイレントギター
シネマステーション「DVX-S200・S120」
「ミュージックキャスト」
ゴルフクラブ「New inpres」
システムバス「ピュート」

連結財務諸表 13.14
Consolidated Financial Statements

単独財務諸表 15
Non-consolidated Financial Statements

株式の状況 16
Stock Information

会社の概要 17
Corporate Outline

株主メモ 18
Shareholders Informaton

To Our Shareholders 株主の皆さまへ

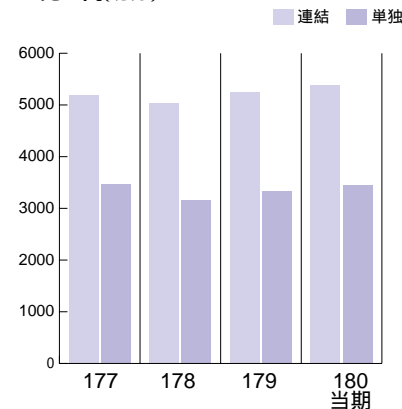
株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
当社第180期(2003年4月1日から2004年3月31日まで)の営業の状況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、個人消費や住宅投資が低迷する中、期中より企業収益の改善が進み、民間設備投資も増加に転じました。海外の景気は、期首にはイラク問題やSARS問題、米国経済の先行きに対する不透明感から後退しましたが、期中より米国の景気が回復し、また中国市場も継続的に拡大を続けました。

このような状況の中で当社は、中期経営計画「感動創生21」の最終年度に当たり、同計画で掲げた目標、「成長へのチャレンジ」、「グループ連結経営」、「企業価値の増大・ブランドを輝かす」を実現すべく、技術開発力・品質の強化、需要の開拓、国内販売網・拠点整備、グローバルな生産・販売体制の確立、生産・物流効率の向上、事業再編・再構築を推進するなど、成長基盤の確立、さらなる経営の効率化に取り組んでまいりました。

販売状況につきましては、楽器事業は横這いで推移し、AV・IT事業ではパソコン用CD-R/RWドライブ事業撤退の影響により売上げ減少となりましたが、電子機器・電子金属事業では携帯電話用音源LSIの伸長により大幅な売上げ増加となりました。

売上高(億円)



以上により連結売上高は5,395億6百万円(前期比2.8%増加)となりました。このうち、国内売上高は3,208億9百万円(前期比2.8%増加)、海外売上高は2,186億97百万円(前期比2.9%増加)となりました。

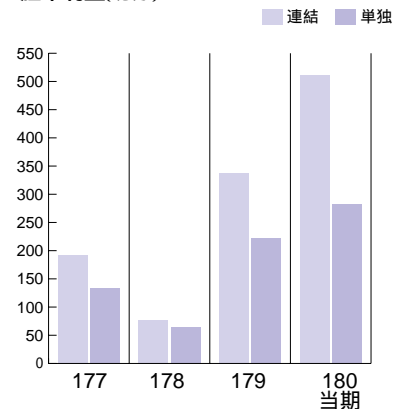
連結損益につきましては、半導体が大幅に売上げを伸ばしたのをはじめ、全体的に堅調な売上げとなったことに加え、製造原価の低減に努めた結果、経常利益は510億36百万円(前期比50.8%増加)となり、当期純利益は435億41百万円(前期比142.6%増加)となりました。

当期の利益配当金につきましては、1株につき10円(中間配当と合わせて年15円)とさせていただきます。

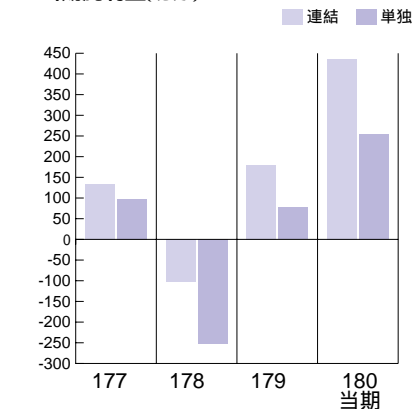
当社は、本年4月から新中期経営計画「YSD50」をスタートさせました。2007年3月期の連結業績数値として、売上高5,900億円、経常利益520億円、当期純利益340億円、ROE10%、実質有利子負債ゼロを目標にしております。高水準の利益を安定的に創出し、持続的な発展を可能とする経営構造の実現を目指し、以下3つの基本方針を掲げ、各種施策を展開してまいります。

1 全ての事業の収益力を強化し、中でも楽器事業の収益性を大幅に高めることでグループ全体として安定的な高収益体質を構築します。2 各事業の中高級品市場に注力、ブランドポジションの優位性を高めると同時に、ヤマハの総合力を活かした独創的な新規商品の提案および新規事業創出により

経常利益(億円)



当期純利益(億円)



新たな需要を開拓します。3 企業価値 / ブランド価値の持続的な増大・発展を目指すために経済面、環境面、社会面での求められる責任を誠実に果たすとともに、継続的改善のためのマネジメントシステムを整備してまいります。

国内では企業収益が改善し世界経済も回復傾向にあるものの、依然として厳しい経営環境が続くものと思われませんが、ヤマハグループ一丸となって、高水準の利益を創出し、継続的に発展する経営構造の実現に努め、株主の皆様のご期待にこたえていく所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2004年6月
代表取締役社長

伊藤修二

連結事業の概況

楽器事業

楽器は、海外売上げが増加したものの、国内売上げの低迷が続いたことから横這いに止まりました。商品別には、ピアノは、欧州市場では売上げを伸ばしましたが、国内、北米では売上げ減少となりました。電子楽器は、ポータブルキーボード、クラビノーバが堅調に推移したほか、米国市場において音響機器が伸長しました。その他の楽器では、管楽器のカスタムモデルが好調に売上げを伸ばし、弦楽器も売上げ増加となりました。

教室収入は、音楽教室では成人向け教室が順調に拡大しましたが、少子化の影響により児童の在籍数が減少したことから、売上げが減少しました。英語教室は、在籍生徒数の増加により売上げを伸ばしました。

着信メロディー配信サービスは、市場の飽和や競合他社による「着うた」など新規サービスの影響により売上げ減少となりました。

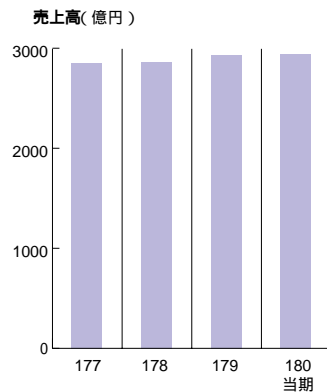
以上により、当事業の売上高は2,934億30百万円(前期比0.3%増加)、営業利益は104億80百万円(前期比7.0%増加)となりました。

主要連結子会社

- (株)ヤマハミュージック東京他販売子会社11社
- Yamaha Corporation of America
- Yamaha Canada Music Ltd.
- Yamaha Music Holding Europe G.m.b.H
- Yamaha Music Central Europe G.m.b.H
- Yamaha-Kemble Music(U.K.) Ltd.
- Yamaha Musique France S.A.S.
- P.T.Yamaha Music Manufacturing Asia
- 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司
- 天津雅馬哈電子楽器有限公司

主要製品

- ピアノ、電子楽器、管・弦・打楽器、教育楽器、音響機器、防音室、音楽教室、英語教室、コンテンツ配信、調律



AV・IT事業

オーディオは、ホームシアターや中高級アンプ、レシーバーが好調に売上げを伸ばしたほか、情報通信機器でも、企業向けルーターが好評を博しましたが、パソコン用CD-R/RWドライブ事業からの撤退(昨年3月末)により、売上げ減少となりました。損益につきましては、不採算事業からの撤退等により改善しました。

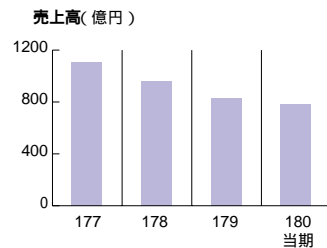
以上により、当事業の売上高は782億57百万円(前期比6.5%減少)、営業利益は44億18百万円(前期比35.9%増加)となりました。

主要連結子会社

- Yamaha Electronics Corporation, USA
- Yamaha Elektronik Europa G.m.b.H
- Yamaha Electronics Manufacturing(M) Sdn.Bhd.
- 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司

主要製品

- オーディオ、情報通信機器



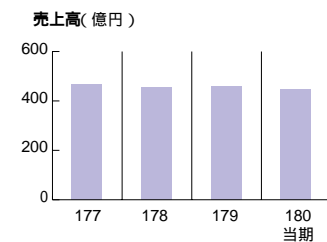
リビング事業

住宅投資が若干の増加傾向で推移する中で、システムバスは新商品が高い評価を得るなど健闘しましたが、システムキッチンが苦戦いたしました。売上げ全体では若干の減少となりました。損益につきましては、コストダウン等により改善しました。

以上により、当事業の売上高は447億65百万円(前期比2.8%減少)、営業利益は14億62百万円(前期比216.5%増加)となりました。

主要連結子会社

- ヤマハリビングテック(株)
- 主要製品
- システムキッチン、システムバス
- 洗面化粧台、家具、住設部材



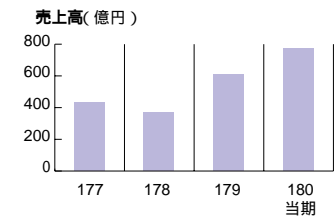
電子機器・電子金属事業

半導体は、携帯電話用音源LSIが堅調な国内需要に加え、韓国、中国市場向け需要の増大もあり大幅に売上げを伸ばし、アミューズメント用LSIも伸長しました。電子金属材料は、デジタル家電向け銅系合金が売上げを伸ばしましたが、インバー材事業からの撤退(昨年7月生産終了)により売上げ減少となりました。損益については大幅に改善しました。

以上により、当事業の売上高は768億92百万円(前期比27.0%増加)、営業利益は300億18百万円(前期比55.7%増加)となりました。

主要連結子会社

- ヤマハ鹿児島セミコンダクタ(株)
- ヤマハメタニクス(株)
- 主要製品
- 半導体、特殊合金



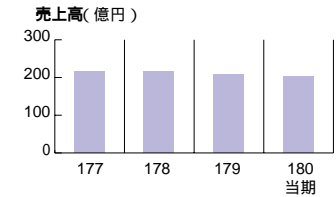
レクリエーション事業

「寸座ピラ」閉鎖(昨年6月末)や暖冬による「キロロリゾート」のスキー客の落ち込みにより売上げは減少となりました。損益につきましては、前年横這いとなりました。

以上により、当事業の売上高は201億円(前期比3.8%減少)、営業損失は11億10百万円(前期は営業損失11億10百万円)となりました。

主要連結子会社

- (株)沖口開発公社
- 主要製品
- 観光施設・宿泊施設・スキー場
- およびスポーツ施設の経営



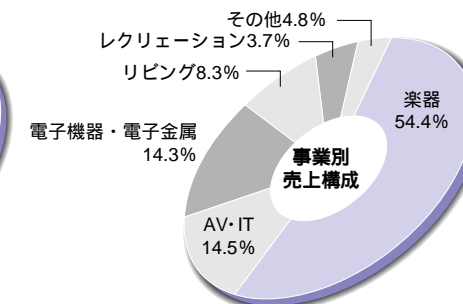
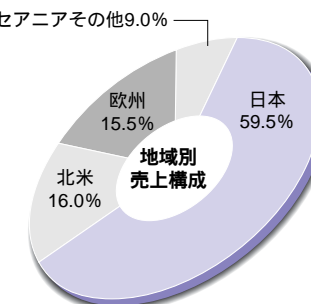
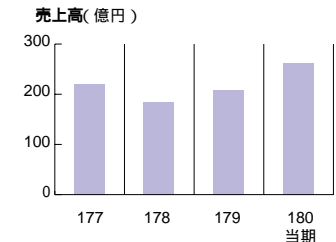
その他の事業

ゴルフ事業は、新商品の投入により国内は順調に推移しましたが、輸出の減少により、全体としては売上げ減少となりました。FA・金型部品事業は、携帯電話用マグネシウム部品、ゲーム機器用プラスチック部品、リークテスターとも売上げが伸長しました。自動車用内装部品事業は採用車種のモデルチェンジ、新規車種の受注が好調で売上げを伸ばしました。損益につきましては、FA・金型部品事業の損益が悪化したことなどから、営業損失となりました。

以上により、当事業の売上高は260億61百万円(前期比24.4%増加)、営業損失は2億11百万円(前期は営業利益3億65百万円)となりました。

主要連結子会社

- ヤマハファインテック(株)
- 主要製品
- ゴルフ用品、自動車用内装部品、FA機器、金型・部品



特集

成長する中国経済とヤマハの取り組み

中国の現状

中国は1900年代の後半より、「世界の工場」として注目されてきました。2003年には年間4万社以上の外資企業の進出があり、「SARS」や「電力不足問題」にもかかわらず、9%以上の経済成長を果たしました。また輸出入総額は8,000億ドルを突破し、世界第4位の貿易国となりました。

中国の人口は約13億人に達します。国内の携帯電話の普及台数は2億5千万台を超え、2004年の自動車販売台数は500万台が予測されます。「世界の工場」から「世界の市場」として、大きく注目されています。さらに、2008年には「北京オリンピック」、2010年には「上海万国博覧会」の開催が決定しており、今後更なる経済成長が見込まれます。



上海 / 都市建設に多くの資金が投資され都市インフラと環境の整備が進む。北京 / オリンピックを控え町並みが様変わりする首都。北京。イーヨーカ堂やカルフルも進出。天津 / 港湾設備や道路網の整備が進み総合産業都市に発展。北京への海の玄関口としても賑わう。

ヤマハの中国国内での生産拠点と販売拠点
生産拠点 販売拠点

ヤマハの取り組み

ヤマハは製品の価格競争力を維持するため、グローバルな見地から生産戦略に取り組み、1990年の天津ヤマハの操業開始以来、積極的に中国に生産会社を設立してまいりました。現在ある4つの生産拠点に加え、本年10月には浙江省・杭州市で杭州ヤマハが稼働し、中国国内向けのピアノやギターを生産する予定です。

また、1996年に販売会社としてヤマハ貿易(上海)を設立。2002年5月には中国市場での販売強化と、中国マーケティングの一元化を狙って持株会社ヤマハ楽器音響(中国)を設立し、現地対応商品の開発や、全国ディーラーの系列化を進めています。

そして、本年度にはヤマハ音楽教室を実験的に開始します。音楽教室事業を展開し、ハードとソフトの両輪により、急成長している中国市場でのヤマハブランドの浸透を更に加速していく考えです。



昨年から操業を開始したAVの生産拠点、蘇州「雅馬哈電子(蘇州)有限公司」ヤマハ楽器音響(中国)事務所のあるユナイテッド・プラザ

中国のピアノ市場

中国は一人っ子政策の影響もあり教育には熱心なお国柄です。楽器では特にピアノに関心が高く、ピアノ人口は500万人を超え、中国でのピアノ熱は高まる一方です。国内のピアノ需要も年間20万台を超えて、アメリカを抜いて世界1位



販売が好調なヤマハの中国製モデル「YU121」の価格は23,800人民元(日本円で約33万円)

の市場規模となりました。しかし、市場では安価な現地製品が多く、ヤマハ製品の販売はまだ年間6,000台弱の規模にとどまっているのが現状です。ヤマハは、品質の高さと音楽教室事業を両輪としてピアノ販売を推進してまいります。

今後の中国の市場

中国の市場は教育志向が強く、ピアノに偏る傾向にありますが、今後の学校教育の充実や趣味性の高い楽器の普及、音響機器の浸透により、管・弦・打楽器や電子楽器、AV商品などの需要の増大も見込まれます。ヤマハは総合楽器・AVメーカーとして中国市場での販売の大幅な拡大に取り組んでまいります。

中国(上海)国際楽器展覧会

上海は成長を続ける中国を象徴する経済都市です。人口約1,500万人、市民の収入レベルも中国では最高レベルを誇り、伊勢丹やローソンなどの日系流通企業やカルフル(仏)などが進出し、活気に満ちています。

その上海で2003年10月「2003 MUSIC CHINA (中国(上海)国際楽器展覧会)」が開催されました。中国国内と外国から500社以上の参加があり、ヤマハも今回初めて出展しました。ヤマハブースには、ピアノをはじめ、管楽器やギター、シンセサイザーなどを展示、ミニコンサートも実施して、来場者の人気を集めました。



カタログを求める来場者で賑わう受付



ピアノ展示コーナーで熱心に説明を聴く来場者



上海音楽学院講師、章氏によるジャズ演奏が会場を盛り上げました



展示会の会場となった「上海世貿展覧会」

「第5回浜松国際ピアノコンクール」入賞者、ヤマハピアノが独占

2003年11月10日から2週間『第5回浜松国際ピアノコンクール』がアクティシティ浜松で開催されました。今回は1位の該当者がなく、2位をポーランドのラファウ・ブレハツさんとロシアのアレクサンダー・コプリンさんが分け合いました。本選では日本人3人を含む6人のファイナリスト全員が、4種の公式ピアノを弾き比べたうえで、ヤマハのCFIII Sを選び演奏しました。コンクール終了後、参加した多くのピアニストの皆さんからCFIII Sは絶賛されました。



2位に輝いたアレクサンダー・コプリンさん

同じく2位を分け合ったラファウ・ブレハツさんと6人のファイナリスト全員に選ばれたCFIII S



ドリカムライブツアーをエレクトーンがサポート

ドリカム・カム・トゥルーのライブツアー「地上最強の移動遊園地 DREAMS COME TRUE WONDERLAND 2003」が2003年7月-8月につま恋やキロロなど全国7会場で開催され、14回の公演で30万人を動員しました。このツアーにエレクトーンプレイヤーの富岡ヤスヤさんが参加。エレクトーンのカリエティブな可能性を強くアピールしました。また、ドリカムがプロデュースする新人女性ボーカリストNAOMI YOSHIMURAと富岡さんのインスタライブが、9月から年末まで全国32のヤマハ特約店で開催され、エレクトーンと女性ボーカルの新鮮なコラボレーションが好評でした。



DREAMS COME TRUE WONDERLAND 2003 ©M.HASUI

「わかふじ国体」開催、会場に響くヤマハの音色

2003年9月-11月、静岡県で第58回国民体育大会と第3回全国障害者スポーツ大会が開催されました。開会式や閉会式では、ヤマハの楽器が演奏され、ヤマハ吹奏楽団が参加した30本の「ファンファーレトランペット」の奏でる式典でのファンファーレは大きな呼び物となりました。また、アトラクションの演出や、表彰式でのエレクトーン演奏が大会を盛り上げました。そして、障害者スポーツ大会の閉会式でも、エレクトーンの演奏で「音楽国体」を見事に締めくくりました。



表彰式でのエレクトーン演奏

開会式での30本のファンファーレトランペットの演奏

ヤマハ音楽教室から世界に羽ばたくピアニストたち

上原彩子、デビューCD「グランド・ソナタ」を発売
2002年の『第12回チャイコフスキー国際コンクール・ピアノ部門』で第1位を獲得した上原彩子さんのデビューCD「グランド・ソナタ」が2004年2月に全世界で発売となりました。このCDは英国のプリストルのコンサートホールで録音され、『彩子』の名の通り、様々な色彩があふれるチャイコフスキー・アルバムに仕上がりました。2004年5月にはモスクワ放送交響楽団との日本ツアーが行われ、ますます活躍が期待されています。



上原彩子のデビューCD「グランド・ソナタ」

上原ひろみ『アナザー・マインド』でデビュー
上原ひろみさんはアメリカのパークリー音楽院を首席で卒業したジャズピアニスト。彼女のデビューアルバム「アナザー・マインド」は2003年6月に日本でも発売され、テレビ番組「情熱大陸」に出演し話題沸騰。彼女の演奏は本場も認めるパワフルなサウンドで圧倒的な才能感じさせ、またライブでも聴衆を魅了。アルバムセールスも好調で、ジャンルや国境を超えた活躍が期待されています。



「大人の音楽レッスン」シリーズ広告が日経BP広告賞を受賞

「大人の音楽レッスン」シリーズ広告が、広告電通賞、日本雑誌広告賞に続き、2004年4月に日経BP広告賞の最優秀賞を受賞しました。この広告は成人層に趣味で楽器演奏を楽しく習うことを提案するシリーズ広告で、大人のレッスン利用者は年々増加しています。また、2003年4月より全国展開された「ヤマハ楽器レンタルシステム」も好調にスタート。このシステムのリーズナブルなレンタル価格や気軽さが、大人が楽器レッスンを始めることをサポートしています。また大人の生徒による発表会も盛り上がりを見せており、子供による楽器市場とは別の新しい楽器市場になると期待されています。



日経BP広告賞受賞式



日経BP広告賞を受賞した「大人の音楽レッスン」シリーズ広告

音にこだわった、新時代のエレクトーン「STAGEA」

ステージア

徹底した音へのこだわりにより 音楽の表現力が向上

ヤマハの豊富な音源ライブラリーの中から音色をセレクト、また多彩なジャンルをカバーするリズムパターンを備え、クラシックからポピュラーミュージックまで幅広いジャンルが演奏できます。タッチにより音量や音質を変化させたり、ピブラートをかけたりできる(ELS-01C)ので音楽を豊かに表現できます。音色やリズムの組み合わせをメモリーできるレジストレーションメニューは300種類(ELS-01C)。操作性と即興性が向上して、他の楽器やボーカルとのセッションでも大活躍します。



『STAGEA』のテレビCMには『ジュニアエレクトーンコンクール2003』高校生部門の金賞に輝いた鶴橋知也さんを起用

インターネットにダイレクト接続

インターネットから演奏データが試聴、ダウンロードできる新機能を搭載。将来的にはネット経由でバージョンアップサービスも計画しています。

スタイリッシュデザインで分解や組立が簡単

演奏者の足の動きが見えるサイドフレームを採用。分解すればクルマで運搬でき、組み立ても約15分でOK。屋外やコンサート会場など、演奏のシーンが広がります。また、ユニットを交換すれば、スタンダードモデルからカスタムモデルにグレードアップできます。



東京・丸ビルホールでの新商品発表会には多くのマスコミ関係者が集まり、タレントの乙葉さんやエレクトーンプレイヤーの富岡ヤスヤさんが演奏しました

Electone STAGEA™



サイレントピアノ10周年記念モデルを限定発売

サイレントピアノ誕生10周年記念モデルとして『YS10』『YS30』が2003年4月1日から1年間の期間限定で販売されました。周囲に気兼ねなく夜間でも演奏ができる機能が好評を得て、現在ではヤマハのピアノ出荷のうち3割以上がサイレント機能付です。

記念モデルは、アップライトピアノのベストセラー「YU10」「YU30」をベースとして、基本性能はそのままに、本物のピアノタッチ感で弾けるサイレント機能を追加。お買い得感のある価格としました。ピアノづくりという伝統技術と最先端のテクノロジーとの融合で、ヤマハは新しいピアノの世界をつくりあげています。



あこがれのグランドピアノが身近に、「Z1」



「Z1」はグランドピアノ本来の機能や特徴を初心者も含めて多くの人に経験いただけるようにつくられたエントリーモデルです。ピアノの基本形はグランドピアノであり、最もレッスン効果が高いとされています。ひろがり感のある豊かな音の響きと、音楽を自在に表現するタッチはグランドピアノならではのものです。グランドピアノとしての品質にこだわりながら、アップライト型なみのお手頃な価格で発売することにより、多くのお客様に優れた感覚を体験いただいております。

「サイレントギター」にカラーバリエーション登場

2001年の発売以来、優れた演奏性と静粛性により、初心者からミュージシャンまで幅広い層からご好評をいただいている「サイレントギター」にカラーバリエーションが登場。ブラック、レッド、アンバーバーストの3色が追加となりました。いずれもヤマハの塗装技術を駆使して、艶出しの高級感のある仕上げになっています。また、新モデルのイメージアーティストには中島みゆきさんを起用。「色」を強調した広告ポスターでカラーバリエーションをアピールしました。



さらにスタイリッシュで高音質、NEWシネマステーション

ホームシアターの新品として、さらに「いい音、簡単、スタイリッシュ」なシネマステーションの新機種を発売しました。

「DVX-S200」は高音質にこだわった、インテリシア性の高い、シリーズ最上位機種。ヤマハ独自のシネマDSP技術やスーパー・オーディオ

CD再生機能を搭載、豊かな臨場感と高音質を追求しました。「DVX-S120」は手軽にホームシアターを楽しみたい方にお勧めのハイコストパフォーマンス機種。S200の基本性能を備え、よりカジュアルなデザインで、お求めやすい価格を実現しました。




DVDの普及やデジタル放送の開始で高画質・高音質が進み、プラズマテレビやホームシアターの需要が急増していますが、ヤマハは臨場感あふれるシネマDSP技術でホームシアター市場をリードします。

ホームミュージック・ネットワーク・システム「ミュージックキャスト」

「ミュージックキャスト」は家庭内の好きな場所で、好きな音楽を楽しめるワイヤレス・ホームミュージック・ネットワーク・システムです。1台のサーバーに対して5台までのクライアントがメニュー操作だけで簡単にワイヤレス接続できます。サーバーには音楽をストックでき、リモコン操作

で自由に再生できます。非圧縮モードでCD約100枚分の音楽、圧縮モードなら1,000枚分がストック可能です。クライアントは壁掛ができる薄型コンパクトサイズ。高音質デジタルパワーアンプを内蔵し、専用スピーカーやお手持ちのスピーカーと接続して使えます。



初速性能で最大飛距離が狙える「New inpres」

藤田寛之プロなどトッププロのアドバイスを基に開発され、人気の「インプレス」シリーズがフルモデルチェンジしました。クラウンやソールにも反発性のよいチタン合金を採用、フェイスとボディの溶接を改良することにより、さらに高反発係数を実現して初速性能を大きく伸ばしました。またプレーヤーに信頼感を与える心理学デザインがプラスの飛距離をもたらします。

NEW **inpres**



旅するバスルーム、『ビュート』がデビュー

ヤマハリビングテック(株)は、エア・ウォーター・エモト(株)との共同開発商品としてシステムバス『ビュート』を発売しました。「旅する、バスルーム。」を開発コンセプトとし、旅先のように、日々のストレスから解放されたやすらぎの時間を過ごせる浴室空間です。インテリア性と機能性を融合させた3シリーズを提案。



LEDライトで光を演出したリゾートホテル感覚の「TZシリーズ」。ワイドミラーで空間的な広がりをもたせ、木目と人造大理石が新和風テイストの「MZシリーズ」。色調や壁柄、照明、ミラーなどをコーディネートできる「SZシリーズ」。オプションとして、浴室音響システム「アクアソニックR」や「アクアライト」「アクアマッサージ」「ミストサウナ」などのリラクゼーション機能も用意しています。

連結貸借対照表の要旨

科目	180期(当期)	179期	科目	180期(当期)	179期
	'04年3月	'03年3月		'04年3月	'03年3月
資産の部			負債の部		
流動資産	201,704	221,089	流動負債	123,596	158,148
現金及び預金	32,053	44,485	支払手形及び買掛金	39,947	39,462
受取手形および売掛金	81,114	81,755	短期借入金	16,711	27,078
棚卸資産	72,146	80,144	一年以内償還の転換社債		24,317
繰延税金資産	12,291	10,489	一年以内返済の長期借入金	7,388	10,090
その他	6,487	6,839	未払費用及び未払金	45,888	42,501
貸倒引当金	2,389	2,625	未払法人税等	2,492	3,101
固定資産	307,026	291,627	諸引当金	3,065	3,097
有形固定資産	178,667	178,724	その他	8,101	8,498
償却資産	100,326	100,806	固定負債	121,891	136,171
土地	75,362	76,835	長期借入金	24,772	28,951
その他	2,978	1,082	再評価に係る繰延税金負債	13,569	13,577
無形固定資産	944	813	退職給付引当金	50,012	53,988
投資その他の資産	127,415	112,089	長期預り金	30,799	36,848
投資有価証券	101,017	77,622	その他	2,738	2,805
繰延税金資産	17,379	24,663	負債合計	245,488	294,319
その他	10,102	11,137	少数株主持分		
貸倒引当金	1,083	1,334	少数株主持分	3,511	3,925
資産合計	508,731	512,716	資本の部		
			資本金	28,534	28,533
			資本剰余金	40,054	40,052
			利益剰余金	203,485	162,344
			土地再評価差額金	15,866	16,152
			その他有価証券評価差額金	10,979	378
			為替換算調整勘定	38,937	32,753
			自己株式	252	236
			資本合計	259,731	214,471
			負債、少数株主持分及び資本合計	508,731	512,716

単位:百万円

連結損益計算書の要旨

科目	180期(当期)	179期
	'03年4月~'04年3月	'02年4月~'03年3月
売上高	539,506	524,763
売上原価	338,057	338,440
延払未実現利益	244	133
販売費及び一般管理費	156,637	154,413
営業利益	45,056	32,043
営業外収益	12,841	9,994
営業外費用	6,861	8,197
経常利益	51,036	33,839
特別利益	613	460
特別損失	4,193	11,687
税金等調整前当期純利益	47,456	22,612
法人税、住民税及び事業税	4,769	3,962
法人税等調整額	1,387	65
少数株主利益	532	636
当期純利益	43,541	17,947

単位:百万円

連結剰余金計算書の要旨

科目	180期(当期)	179期
	'03年4月~'04年3月	'02年4月~'03年3月
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	40,052	26,924
資本剰余金増加高	1	13,127
資本剰余金期末残高	40,054	40,052
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	162,344	157,589
利益剰余金増加高	44,721	19,754
利益剰余金減少高	3,579	14,999
利益剰余金期末残高	203,485	162,344

単位:百万円

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

科目	180期(当期)	179期
	'03年4月~'04年3月	'02年4月~'03年3月
営業活動によるキャッシュ・フロー	58,349	33,052
投資活動によるキャッシュ・フロー	18,775	21,645
財務活動によるキャッシュ・フロー	50,141	8,582
現金及び現金同等物に依る換算差額	1,599	504
現金及び現金同等物の増減額	12,167	2,319
現金及び現金同等物の期首残高	42,976	40,571
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	1,150	85
除外連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	127	
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	587	
現金及び現金同等物の期末残高	31,245	42,976

単位:百万円

単独財務諸表

単独貸借対照表の要旨

科目	180期(当期) '04年3月	179期 '03年3月
資産の部		
流動資産	86,637	104,521
当座資産	52,414	67,640
棚卸資産	23,531	27,748
その他	10,691	9,132
固定資産	250,392	242,978
有形固定資産	117,538	118,470
無形固定資産	103	110
投資その他の資産	132,750	124,397
資産合計	337,029	347,499

単独損益計算書の要旨

科目	180期(当期) '03年4月～'04年3月	179期 '02年4月～'03年3月
売上高	345,354	334,078
売上原価	248,139	245,721
延払未実現利益	241	124
販売費及び一般管理費	70,500	66,583
営業利益	26,954	21,897
営業外収益	2,382	1,661
営業外費用	1,218	1,340
経常利益	28,118	22,218
特別利益	371	382
特別損失	4,047	13,743
税引前当期純利益	24,443	8,857
法人税、住民税及び事業税	100	100
法人税等調整額	1,236	1,051
当期純利益	25,579	7,706
前期繰越利益	4,421	4,557
土地再評価差額金取崩額	1,221	869
中間配当額	1,031	1,031
当期未処分利益	27,747	12,101

単位:百万円

科目	180期(当期) '04年3月	179期 '03年3月
負債の部		
流動負債	54,464	88,961
固定負債	102,582	112,143
負債合計	157,046	201,105
資本の部		
資本金	28,534	28,533
資本剰余金	40,054	40,052
利益剰余金	97,329	75,115
土地再評価差額金	3,648	2,426
その他有価証券評価差額金	10,622	449
自己株式	207	183
資本合計	179,982	146,394
負債及び資本合計	337,029	347,499

利益処分

単位:百万円

科目	180期(当期) '03年4月～'04年3月
当期末処分利益	27,747
特別償却準備金取崩高	12
圧縮記帳積立金取崩高	193
買換資産取得特別勘定積立金取崩高	440
合計	28,393
これを次の通り処分する。	
利益配当金(1株につき10円)	2,063
役員賞与金	120
(うち監査役賞与金)	(18)
圧縮記帳積立金	436
別途積立金	22,000
次期繰越利益	3,774

(注)平成15年12月10日に、1,031百万円(1株につき5円)の中間配当を実施しました。

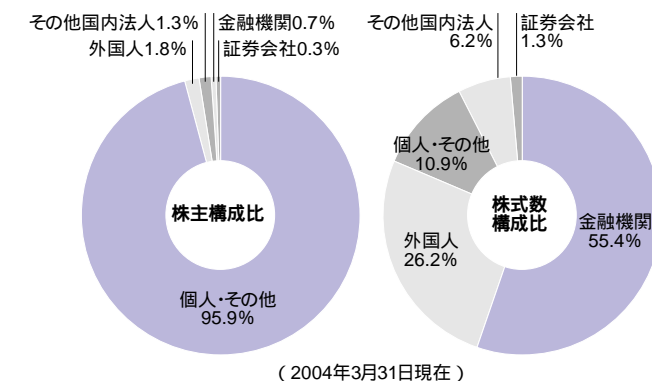
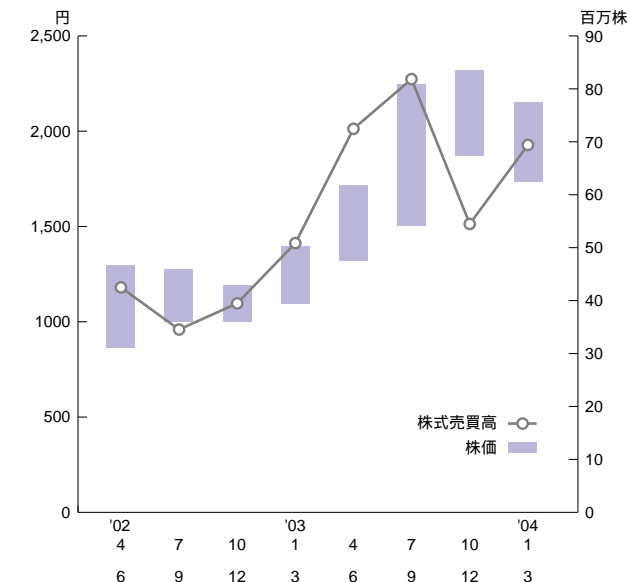
株式の状況

会社が発行する株式の総数	700,000,000株	
発行済株式総数	206,524,626株	
株主数	17,551名	
株主分布状況		
株主構成	株主数	株式数
個人・その他	16,835名	22,593千株
金融機関	114	114,373
その他国内法人	230	12,831
外国人	324	54,062
証券会社	48	2,663

大株主の状況

株主名	所有株式数	議決権比率
日本マスターラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,071,000株	8.77%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,359,400	6.00
株式会社みずほコーポレート銀行	9,275,404	4.50
三井住友海上火災保険株式会社	8,918,925	4.33
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	8,779,990	4.26
株式会社静岡銀行	8,349,855	4.05
住友生命保険相互会社	7,300,000	3.54
日本生命保険相互会社	6,964,452	3.38
株式会社三井住友銀行	5,202,404	2.52
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	4,944,784	2.40

株価および株式売買高の推移(東京証券取引所)



会社の概要

商号	ヤマハ株式会社 YAMAHA CORPORATION
本店	〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号
設立	1897年10月12日(創業1887年)
資本金	28,534,856,885円
従業員数	18,842人(連結) 5,920人(単独)

いずれも臨時従業員を含んでおりません。(2004年3月31日現在)

役員

取締役	代表取締役社長	伊藤 修 二
	専務取締役	岸田 勝 彦
	常務取締役	前嶋 邦 啓
		加藤 博 万
	取締役	長谷川 至
		梅田 吉 弘
		花本 眞 也
		黒江 常 夫
		牧野 時 久
監査役	常勤監査役	太田 直 幹
		堀越 美知夫
	監査役	三浦 州 夫
		和久田 晴比古
執行役員	上席執行役員	梅村 充
	執行役員	篤田 勝 宏
		林田 甫
		戸部 儀 和
		高橋 源 樹
		関口 博
		田丸 卓 也
		加茂 幸 助
		新美 幸 二
		岡部 比呂男

(2004年3月31日現在)

株主メモ Shareholders Information

決算期	3月31日	同取次所	
基準日	3月31日(その他必要があるときは、 予め公告いたします)	中央三井信託銀行株式会社本店および全国各支店、 日本証券代行株式会社本店および全国各支店	
定時株主総会	6月	その他	
利益配当金受領株主確定日	3月31日	株式の名義書換、単元未満株式の買取請求、配当 金のお支払いおよび諸届等のお問合せは、上記名 義書換代理人の事務取扱場所ならびに同取次所で お取扱いいたします。	
中間配当金受領株主確定日	9月30日	なお、「証券保管振替機構」に預託されました株券に ついての諸届および手続等に関するお問合せは、 お取引先の証券会社へお願いいたします。	
1単元の株式数	100株	住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求 および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求 は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031 で24時間受付しております。	
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞 貸借対照表ならびに損益計算書のホームページアドレス http://www.yamaha.co.jp/ir/kessan/index.html		
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社		
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 証券代行部 Tel:052-262-1520		



ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10番1号

Tel: 053(460)2800

Fax: 053(460)2802

URL: <http://www.yamaha.co.jp/>



この事業報告書は再生紙に大豆インキで印刷しました。